

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	朝来市立 朝来中学校 職・氏名 教諭 垣尾 浩子	研究チーム名 (スモールステップ)
-----------------	-----------------------------	------------------------

研究テーマ分類番号 (8)

(1)研究テーマ
すべての生徒のためのライフスキル学習 ～コミュニケーション能力の育成～
(2)研究経過及び具体的な取組
<p>学習に集中できる環境づくりに向けて・・・5月</p> <p>【取組】・黒板と黒板周辺の掲示物を精選した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのもてる予定表を考え提示した。 ・聴覚過敏対応として椅子足カバーを装着した。 <p>【調査】・全校生に「過ごしやすい環境」アンケートを実施(5月10日～14日)</p> <p>【結果】・生徒の90%以上が1日の流れを予定表で確認しながら動き、今日明日の予定が書いてあることへの安心感を抱いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的、計画的な学校生活を過ごすために、予定表を提示することはたいへん効果的であることが分かった。 <p>全職員・全生徒観察の工夫・・・6月</p> <p>【取組】・教室の窓、ドアは常にオープンにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科を問わず自由に教師が観察をした。 ・各学年担当者が特別支援に関する小会議を実施し、実態を把握した。 <p>【成果】・具体的な事例から早期対応ができ、保護者との面談や専門機関との連携もスムーズに行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員の理解と徹底により、個別支援の声かけがより適切になり、生徒の落ち着きへとつながっている。 <p>L D傾向の生徒のWISC - のアセスメントからの指導改善・・・7月</p> <p>【取組】・中2男子生徒の検査結果から、今後の指導改善を研修し全職員へ提案した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者との面談により理解と協力を得た。 ・放課後を利用して個別学習とソーシャルスキル支援を行った。 <p>【調査】・対応改善による学習態度の変化を記録(担任、教科担当、部活動顧問)</p> <p>【成果】・できないことへの支援を具体的な個別の声かけに切り替えたことにより、セルフエスティームが高まり、自信を持って生活できるようになってきた。</p>

通級配置校 担当教諭 訪問・・・ 8月

【取組】・通級配置校(2校)を訪問し、通級の実態を調査した。

【調査】・通級利用生徒の実態

- ・教室の位置、利用者数、利用時数
- ・通級利用に関しての保護者の理解度、提案手順
- ・指導内容とその成果

【成果】・中学校での通級指導の難しさに直面しながら、個々の生徒に適切な指導を行う工夫を知ることができた。

- ・学習支援なしには考えられない中学校での通級の現状をどう発展させていくかを考える良い機会となった。

ライフスキル学習の導入・・・ 10月

【取組】・スクールカウンセラー(S C)とともにライフスキル授業をおこなった。

- ・計画、立案ともS Cと協議しながら実施し、生徒にとってS Cを身近に感じる機会になるよう工夫した。

【成果】・コラージュによって他者理解へつなげるよう取り組んだが、生徒の表現力の未熟さを痛感した。

- ・絵から感じるコメントをS Cから生徒へ語りかけることで教師以外の視点からあたたかく自分たちを見守る大人の存在を感じさせることができたようだ。
- ・実際に、この授業のあとからS Cへのアクセスが急増し、保護者への面談につなげるケースも格段に増えた。

特別支援的視野を含む授業改善・・・ 11月

【取組】・視覚教材の活用、端的な説明、個別の配慮を盛り込んだ授業の実施(公開)

【調査】・中1数学、中2英語、中3国語での研究授業の実施

- ・授業後のアンケートを実施(教職員用・生徒用の両面から)

【成果】・視覚教材を活用することで生徒の理解への意欲は高まる。

- ・説明は、生徒の手を止めさせ、少なく短くはっきりとおこない、組織力を生かし徹底して行う必要がある
- ・自尊心を傷つけないよう個別対応教材(ワークシート)を事前準備することで苦手意識の強い生徒のモチベーションを維持できることがわかった。